

(様式6)

恩幣 宏美氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Notable Cultural Aspects that Affect Hemodialysis Patient's Attitudes toward Dietary Therapy
(血液透析患者の食事管理行動に対する態度に影響する文化の特徴)
雑誌名 (巻) Studies in Comparative Culture, 110: in Press, 2014
著者 Hiromi Onbe and Kiyoko Kanda

論文の要旨及び判定理由

本研究は、血液透析患者の食事管理行動における態度に影響する文化の特徴を明らかにし、今後、医療者が行う態度変容に対する患者教育について検討することを目的としている。食事に関する教育を受けた経験があり、検査データが良好な慢性維持血液透析患者 9 名とその家族 8 名に対して、参与観察および半構成的面接によるエスノグラフィーの手法で行い、thematic analysis の手法に則って分析した。その結果、血液透析患者の食事管理行動における態度に影響する文化の特徴として、日本の食と家族文化に関する 2 つのテーマ【日本の旬を味わいつつ、日本文化を活かした食事をしている】と、【家族が寄り添い、思いやりを持って支えあっている】を明らかにした。これらの文化は、適切な食事管理行動の態度を形成する要因のひとつである。

以上のことから、血液透析患者の食事管理行動に対する態度に影響する文化を理解した上で、患者教育を行うことが態度形成や行動変容に有効であるが示唆され、臨床応用ならびに看護学の新たなエビデンスの創出に寄与するものと認められ、博士（保健学）の学位に値するものと判断した。

平成26年1月10日

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 看護学講座	岩永 喜久子	印
副査	群馬大学大学院教授 看護学講座	吉田 亨	印
副査	群馬大学大学院教授 看護学講座	二渡 玉江	印

参考論文

Defining the culture and attitude towards dietary management actions in people undergoing haemodialysis.

(血液透析患者の食事管理行動に対する態度と文化の定義)

Journal of Renal Care, 39(2): 90-95, 2013

Onbe H, Oka M, Shimada M, Motegi E, Motoi Y, Okabe A

(様式6, 2頁目)

最終試験の結果の要旨

態度に関するKAPモデルについて、エスノグラフィー手法について、および臨床応用に向けた展望について試問し満足すべき解答を得た。

平成26年1月10日

試験委員

群馬大学大学院教授	看護学講座	岩永 喜久子	印
群馬大学大学院教授	看護学講座	吉田 亨	印
群馬大学大学院教授	看護学講座	二渡 玉江	印

試験科目

態度変容とKAPモデルについて	Ⓐ・否
エスノグラフィー手法について	Ⓐ・否
臨床応用に向けた展望について	Ⓐ・否